

地域で取り組む防災教育 地域で育む生き抜く力

～防災キャンプの取組～



本県は、度重なる地震や豪雨による大きな被害を受けています。そのため、市町村において災害対策ガイドブックや防災マップの作成、学校や地域コミュニティといった組織ごとの大規模訓練などが行われています。しかし、ガイドブックやマップを日常生活または災害時にどのように活用するか、電気・ガス・水道などのライフラインが遮断された中で地域組織としてどのように連携して避難所などを運営するかといった体験的な取組は少ない状況です。

そのため、本事業では、今までの各市町村及び地域組織による取組をより効果的なものとするため学校区の児童及び保護者、地域住民、関係機関が連携した防災キャンプを実施しました。

「防災教育フォーラム～地域と共に創る安全～」の開催

1 趣 旨

中越地震、7・13水害など県内で発生した大規模災害の経験と教訓を風化させることなく、子どもたちに確実に伝えることをはじめとした防災教育の推進が求められている。このため、子どもたちの防災意識を育み、学校・家庭・地域が連携して災害に備える取組について考える。

2 期 日 平成24年7月12日(木)

3 会 場 見附市文化ホール アルカディア

4 日 程 (プログラム)

・ 基調講演 (一般向け)

「想定外を生き抜く力を育む防災教育」～釜石市津波防災教育に学ぶ～

群馬大学大学院工学研究科 教授 片田 敏孝 氏



防災教育でもっとも重要なことは、子どもたち一人ひとりが主体的姿勢を持つことであることと、そのために「避難3原則」(想定にとらわれるな、最善を尽くせ、率先避難者たれ)を提唱していることを、東日本大震災の際の釜石市の子どもたちの避難行動の様子や同市で片田氏が長年取り組んできた津波防災教育の話を変えて、大変わかりやすくお話をいただきました。また、防災教育を学校だけに任せるのではなく、行政・学校・地域・家庭が連携して取り組み、「津波てんでんこ」のような地域の「災害文化」を作り上げることの大切さを伝えていただきました。

・ 基調講演 (小学生向け)

「7・13水害の体験や東日本大震災における救助・復旧活動体験談」

新潟県赤十字安全奉仕団 副会長 岡村 勝元 氏

見附市消防本部職員

・ ワークショップ「みつけレスキュー5」

※見附市消防本部職員及びNPO法人川に学ぶ体験活動協議会指導員が、見附市内の小学校の児童をモデルに災害時に必要とされる技能の体験活動を紹介します。

- ① あなたが救う命 緊急搬送!
～けがなどで動けなくなった人を協力して安全に搬送しよう!～
- ② 投げろ 命のロープ!
～スローロープで漂流者を助ける練習をしよう!～
- ③ 命と絆を結ぶ1本のロープ
～自分の体や物を結ぶ、ロープワークを学ぼう!～
- ④ Eボートを準備せよ!
～水害時に活躍する、Eボートの組み立てを体験しよう!～
- ⑤ 装着! ライフジャケット
～正しいライフジャケットの着用方法を学ぼう!～



「防災キャンプinみつげ」（見附市）の実施

1 ねらい

- (1) 災害について科学的な知識・理解を深める。
 - ・ 実際の水害の様子を知る・ハザードマップの理解と活用・遊水地の見学 等
- (2) 自分と家族、友人などの身を守る方法を身に付ける。
 - ・ 非常食を食べる・避難経路の危険箇所の現地確認・Eボート体験・搬送体験・着衣泳
 - ・ スローロープによる救助体験・炊き出し体験・教室での宿泊 等
- (3) 人間としての生き方を身に付け、絆を深める。
 - ・ あいさつ・自分の考えを伝える・感謝の気持ちを伝える 等

2 期 日 平成24年8月22日(水)～24日(金) 2泊3日

3 会 場 見附市立名木野小学校

4 日 程 (プログラム)

1日目：8月22日(水)

16:30～17:00 ○ 名木野小学校児童玄関にて受付

1日目の避難所開設の受付は、地域の皆さんの協力で実施。

17:10～18:00 ○ 開会式、ガイダンス(図書館)



ガイダンス…7・13水害の様子の映像を見る。実際の避難の体験談を聞く。

7・13水害時の避難の様子、被害の状況などを消防本部の方と地域の方からお話をしてもらいました。



【協力者の声】

7・13水害に遭遇した立場の人間として、子どもたちに当時のことを理解してもらえば、今後の災害に対する考え方も変わってくるのではないかと、思って協力しました。参加した子どもたちは、よくがんばっていて、感心しました。

19:00～19:40 ○ 夕食…缶詰パン、備蓄用クラッカー、カンパんでの食事

20:00～21:00 ○ **見附市豪雨災害対応ガイドブック(ハザードマップ)を利用して、浸水の想定、地域の避難所、逃げ時などを学習。**



見附市豪雨災害対応ガイドブックは、刈谷田川、信濃川、猿橋川が決壊した場合の、見附市の浸水の特徴と土砂災害の危険地域を示した物です。住民が、このガイドブックをもとに自主的に避難するタイミングを判断するために、7・13水害を契機に作成されました。

21:30

○ 1日の振り返りと健康観察



就寝前に、各班で「今日の学び」を振り返りました。タックシールに自分が「わかったこと」「できるようになったこと」「明日への課題」を書き出し、楽しみながら学習しました。

【参加者の声】

人の意見を聞いたり、一緒に考えたりできたので、とても勉強になりました。

2日目：8月23日(木)

6:30～7:30

○ 地域散策…「ハザードマップ」をもとに地域の避難場所、避難路を確認

地域散策は、自宅の位置により2班に分かれて行いました。新潟県赤十字安全奉仕団の方から、避難所、避難経路などを確認するだけでなく、危険箇所、流されないための「ヒューマンチェーン」などについても教えてもらいました。また、参加者の交通事故防止、安全確保のため保護者の協力者も一緒に地域を歩いていただきました。

【協力者の声】

地域を歩いて、水害を経験したお宅でお話を聞いたり、避難の方法などをお聞きして「なるほど!」とか「へえ〜!」って思うことがたくさんあり、子どもだけでなく、大人にとってもためになりました。

8:00～

○ 朝食…アルファ米、缶詰等の非常食での食事

班で協力して、限りある飲み物や食べ物を分け合って食べました。



【参加者の声】

- ・いろいろな非常食があることが分かったけれど、毎日家で食べる食事のありがたさがわかりました。
- ・友だちと限りある食糧を分け合って食べることは、協力したり、絆を深めたりするのにいい経験になりました。

9:30～12:00

○ 刈谷田川体験活動



指導者…NPO 法人川に学ぶ体験活動協議会

名木野小学校近くの嶺崎橋の下から、上流の中州までEボートを漕ぎました。

【参加者作文より（一部抜粋）】

川は正しく遊べば楽しいけど、きまりを守らないとおぼれて命を落としてしまうことがわかりました。刈谷田川は、岸側が浅くて安全だけど、真ん中に近づくほど深かったです。Eボートは、みんなで一緒にこげば、少ない時間でたくさんの方が助けられるからいいなと思いました。

☆キャンプを通じて「協力」を学ぶ！

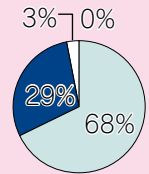
このキャンプでは、食事やEポートでの移動、救助体験など様々な活動を通して、子どもたちに協力する大切さを伝えることもねらいのひとつでした。

【参加者作文より(一部抜粋)】

防災キャンプは、たくさんの方々がいろんな取組を考えられました。ここで学んだチームワークのことは、水害がなくてもいろんなことに立ち向かう力にきつと思います。

友達と協力して活動できましたか 【参加者アンケートより】

- とてもできた
- あまりできなかった
- まあまあできた
- まったくできなかった



13:00～16:30 ○ 「みつけレスキュー」…搬送体験・着衣泳・スローロープによる救助体験

指導者…見附市消防本部職員、NPO 法人川に学ぶ体験活動協議会



【参加者作文より(一部抜粋)】

竹ざおと毛布やTシャツでたんかを作り、けが人を運びました。工夫すれば、こんな便利なものが作れるんだなと感心しました。もし、けがをした人を見つけた時には、役に立てたいです。着衣泳やライフジャケットを着て水中に入った時には、とても不思議な感じがしました。あおむけの姿勢で浮くやり方は、もしも水害が起きた時には使いたいです。

17:30～19:00 ○ 夕食…地域や保護者の皆さんの協力による炊き出し

見附市消防本部より、実際の災害時に避難所での炊き出しに使用する調理器具をお借りして、地域住民や保護者などから豚汁を作ってくださいました。

また、児童は避難所での自分たちができることの一つとして非常食の「おこわ」を協力してくださった人たちの分も含め準備し配給しました。

【地域住民・保護者の感想】

普段話をしたことがない地域の方や他の学年の保護者の方と力を合わせることができました。手作りでハプニングもありましたが、実際の避難所でもハプニングの連続でしょうし、それをなんとか乗り越えたり、やり遂げたりするからこそ団結力、仲間意識も出てくるんだろうなと思いました。



19:30～ ○交流イベント

21:00 ○就寝準備と健康観察

21:30～ ○就寝

3日目：8月24日(金)

8:30～10:30 ○ 遊水地見学



協力者…遊水地協議会事務局

市のバスで、刈谷田川の堤防や遊水地をまわり、遊水地の仕組みや水害時の話、農家の方々がどのような思いで遊水地に協力しているのかといったお話を聞きました。



【協力者の声】

少しでも災害を通して地域を理解してほしいと思いました。熱心に聞いてくれたので、説明に力が入りました。

11:00～11:30 ○ キャンプのまとめ

キャンプをとおして、わがったこと、できるようになったこと (事後アンケートより)

- ★みんなで協力すれば、一人ではできないこともできるようになることがわかった。
- ★逃げどきマップや現地確認で、避難所がどこにあるか、いくつあるかわかった。
- ★遊水地の意味、いろいろな人の苦勞、場所などがわかった。
- ★何かをやる時に、常にみんなのことを考えること！
- ★着衣泳を通して、水の流れ、水の流れの速さなどを学んだ。
- ★非常食を食べて、いつものご飯がとても美味しいものだと思えた。
- ★災害にあっても、きっとあわてずに逃げることができると思う。

【参加者作文より(一部抜粋)】

私が実感したことは、二つあります。一つ目は、食料です。いつも当たり前のように食べていたご飯。防災キャンプのおかげで、ご飯のありがたみがわかりました。1日目夜のかんづめパンとクラッカーよりも、2日目夜のとん汁がおいしかったのは、炊き出しに来てくださった地域の方の気持ちがこもっていたからだと思います。お母さんが作るいつものご飯も同じだなと思いました。

二つ目は、家族です。防災キャンプで家族と離れて過ごした3日間。友達と一緒にいたからさびしくはなかったけれど、眠る直前に「今、元気かな」と会いたくなりました。いつも一緒にいる家族の温かさがわかりました。

防災キャンプを終えて、ひなんの仕方や困っている人の助け方など、家族が分からないことも私は学べました。家族にも知らせて、対策や準備をしていきたいです。

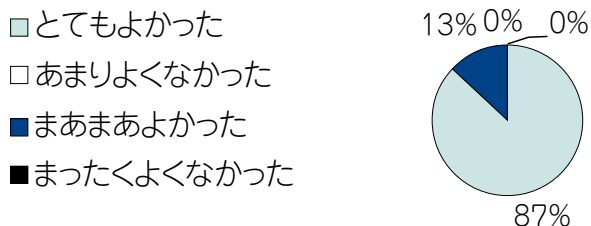
11:45 ○ 閉会式

12:00 ○ 保護者への引き渡し訓練…キャンプは、緊急時を想定した保護者への引き渡し訓練をもって終了。

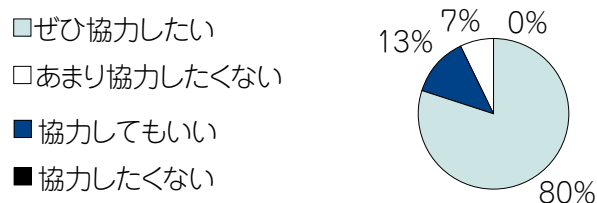
5 地域住民・保護者の反応（事後アンケート結果より）

このキャンプには、地域住民や保護者の方に協力していただきました。アンケートでは、このような学校・家庭・地域が連携した取組について全ての方から、よい取組であると評価していただきました。また、今後も協力したいと多くの方から御回答いただきました。この取組を通じて、子どもたちの防災意識を高めるだけでなく、地域のつながりをいっそう強くすることができました。

指導者・協力者として参加した気持ち



今後、このような機会があったら協力したいか



【保護者】

子どもたちが、真剣に体験している、いつもとは違う様子を見ることができました。消防署の方の話を聞いたり、見たりする中で、知らないことがたくさんありましたので、私にもこれからの知識として役立ちました。

【協力者】

受付で校区の子どもと交流ができてよかった。子どもたちは、消防による当時のスライドと地域の人たちの話に、じっと耳を傾けていた。当時の大変さをわかってくれたのではないかなと思う。

【協力者】

子どもたちから「防災」というものをリアルに理解してもらうため、現地確認では7・13水害時の救助現場や救助家屋に出向き、「地域のどの場所で、どんな生命の危機が発生し、人々はどう対応したか」という災害時の人間ドラマも説明させていただきました。振り返れば、長年防災を仕事としながら、こういう指導は初めての体験で、自分自身にとって防災教育についての新しい知見を得たような感謝を感じております。

【北谷北部地区コミュニティ協議会長さん】

子どもたちは、大変素直に指導者や地域の人のお話を聞いていました。その時の目の輝きが素晴らしく、子どもたちの無限の知識の吸収力を感じました。実際の災害にあった時、どう生き延びるか。また、日頃と違う環境の中で、話し合う大切さを学んだと思います。きっとこの体験は、大人になっても活かされることでしょう。



新潟県

問い合わせ先

新潟県教育庁生涯学習推進課 〒950-8570 新潟市中央区新光町4番地1

TEL 025-280-5617【直通】 025-285-5511【内線 3895】 FAX 025-284-9396